

第2 実践事例

事例6 社会との関わりを意識した学習の充実を図る事例

○学年 第2学年

○主な領域 (地理的分野) C 日本の様々な地域 (1) 地域調査の手法

○事例のポイント

- ①生徒たちが調査したいと必要感に駆られ、「自分ごと」として課題を設定し、困難に向き合い、試行錯誤するなどの学びの場面を工夫する。
- ②学びの過程について自覚する機会を意図的に設け、生徒が学習を自己調整し、学習課題を追究する際、各々の学習目標の設定を手助けすることができる工夫をする。
- ③野外調査(フィールドワーク)を実施し、実際に様々な地理的事象を眺め、全体で共有することで、地理的な視点で、社会との関わりを意識することにつなげる。

ICTを活用した主な学習場面

- ・地形図読み取りなどGIS(国土交通省「国土地理院 地理院地図」、RESAS 地域経済分析システム、今昔マップ、WEB 等高線マーカー等)を活用する場面
- ・活動で得られた情報や生徒同士の考えを共有する場面

ICT活用の利点

- ①GISを活用することで、観察対象の焦点化、野外調査方法の吟味、文献資料の収集などの適切な視点が得られるだけでなく、後に学習する「(2)日本の地域的特色と地域区分」で取り上げる項目や「(3)日本の諸地域」、「(4)地域の在り方」での活用も促すことができる。
- ②共同編集アプリを用いて、生徒間で多量な情報を活用しながら異なる視点で考えることで、協働的に学ぶ場面の設定につなげることができる。

1 小単元名 「地域調査の手法 ～歩いて発見！附属中周辺の特徴～」(7時間)

2 小単元について(略)

3 小単元の目標と評価規準

(1) 目標

- ・観察や野外調査などを行う際の視点や方法、地理的なまとめ方の基礎を理解するとともに、読図や用途に応じた地図の作成などの地理的技能を身に付けるようにする。
- ・地域調査で明らかになったことを地図上に適切にまとめ、調査の手法や結果を多面的・多角的に考察し、表現する。
- ・地域調査の手法について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

(2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・観察や野外調査、文献調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方の基礎を理解している。 ・地形図や主題図の読図、目的や用途に適した地図の作成などの地理的技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域調査において、対象となる場所の特徴などに着目して、適切な主題や調査、まとめとなるように、調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察し、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域調査の手法について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

4 小単元の指導計画・評価計画（7時間）

●「学習改善につなげる評価」 ○「評価に用いる評価」

次	学習活動等	評価の観点			評価規準（評価方法）
		知	思	態	
単元の導入 （1時間扱い）	<ul style="list-style-type: none"> 自身が生活する地域の地理的事象に関心をもつ。認知地図（メンタルマップ）を用いて、学校周辺はどのような地理的事象があるか予想し、話し合う。 振り返りシートに初発の考えを書く。 			●	●地域調査の手法について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。（振り返りシート）
	<p>単元を貫く問い 私たちが住む附属中周辺にはどのような特色があるのだろうか</p> <p>事例のポイント① 生徒たちが調査したいと必要感に駆られ、「自分ごと」とできる課題を設定し、困難に向き合い、試行錯誤するなどの学びの場面を工夫する。</p>				
第一次 （2時間扱い）	<p>課題 附属中周辺をどのように調査すればよいのだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> 地形図や主題図などの資料から、地域で見られる地理的事象や特色など必要な情報を的確に読み取る技能を身に付ける。 地理的事象を、地図や図表、グラフなどに表現する技能を身に付け、考察する。 		●		●観察や野外調査、文献調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方の基礎を理解している。（ワークシート） ●地形図や主題図の読図、目的や用途に適した地図の作成などの地理的技能を身に付けている。（ワークシート）
	<p>課題 効率的に調査をするにはどうしたらよいのだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> GIS（地理情報システム）を活用し、効果的な地形図、主題図の見方を学ぶ。 		●		●観察や野外調査、文献調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方の基礎を理解している。（ワークシート）
	<p>ICT活用の利点① GISを活用することで効率よく地形図、主題図の見方を学ぶことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> GISを活用し、野外調査に向けた、資料を作成する。 		○技		○地形図や主題図の読図、目的や用途に適した地図の作成などの地理的技能を身に付けている。（ワークシート）
第二次 （3時間扱い）	<p>課題 野外調査から、どのような謎が見えてくるだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> 観察や野外調査、文献調査を行う際の観察対象の焦点化、野外調査方法の吟味、文献資料の収集などの適切な視点や、資料を活用する方法、地理的なまとめ方などの計画を立て、見通しをもつ。 			●	●地域調査において、対象となる場所の特徴などに着目して、適切な主題や調査、まとめとなるように、調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察し、表現している。（調査メモ）
	<p>事例のポイント③ 野外調査（フィールドワーク）を実施し、実際に様々な地理的事象を眺め、全体で共有することで、地理的な視点で、社会との関わりを意識することにつなげる。</p> <p>※7事例のポイントと考察「野外調査計画」参照</p>				

課題 附属中周辺にはどのような謎があるのだろうか

- 地域調査の結果や文献調査から、適切なまとめになるように調査の手法や結果を多面的・多角的に考察する。

編P50 指導計画作成の留意事項(4)(8)

ICT活用の利点②

GIS（地理情報システム）の活用を通して、様々な情報を多様な視点で考え、協働的な学びを意図的に設定した。

- 地域調査において、対象となる場所の特徴などに着目して、適切な主題や調査、まとめとなるように、調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察し、表現している。（調査メモ、振り返りシート）

第二次（3時間扱い）

課題 どのように調査内容をまとめたらよいのだろうか

- 観察や野外調査、文献調査を通して明らかになったことを地図上に描いたり、土地利用などを表した主題図などから、地域の地形と土地利用の関係を考察する。

- 地域調査を通して明らかになったことを地図上に描くことができている。（ワークシート）

事例のポイント③

野外調査（フィールドワーク）を実施し、実際に様々な地理的事象を眺め、全体で共有することで、地理的な視点で、社会との関わりを意識することにつながる。

- 統計資料等も上手く活用する。

ICT活用の利点②

共同編集ソフトを活用し、振り返りを共有することによって、多様な考えに触れることができるようにする。

単元を貫く問い 私たちが住む附属中周辺にはどのような特色があるのだろうか

- 調べた結果を文章で表現したり、グラフや表にしてわかりやすく示したり、地図を活用して表現したりして、学校周辺地域の特色や課題を捉える。

編P50 指導計画作成の留意事項(2)(9)

- 単元の学習を振り返り、学校周辺地域の特色や課題をとらえることができている。（振り返りシート、定期テスト）

事例のポイント②

学びの過程について自覚する機会を意図的に設け、生徒が学習を自己調整し、学習課題を追究する際、各々の学習目標の設定を手助けすることができる工夫をする。

単元のまとめ（1時間扱い） 本時

単元を貫く問いの解（例）
（本時参照）

5 本時の学習指導（7／7時間）

(1) 目標

- ・学校周辺地域の特色に着目して、地図等にまとめた調査結果を多面的・多角的に考察し、表現できるようにする。
- ・よりよい地域社会の形成に向け、学校周辺地域の課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

(2) 展開

学習活動等	・指導上の留意点	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">観点</div> 具体の評価規準
1 前時までに作成した地域調査の結果をまとめた地図から発表の内容を焦点化する。	・地域調査を行い捉えた地域の特色や課題をどのような形で発表するか整理させる。	
<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">単元を貫く問い</div> 私たちが住む附属中周辺にはどのような特色があるのだろうか		
<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">事例のポイント①</div> 生徒たちが調査したいと必要感に駆られ、「自分ごと」とできる課題を設定し、困難に向き合い、試行錯誤するなどの学びの場面を工夫する。		
2 前時までに作成した地域調査の結果を地域の特色を中心に発表しあう。 3グループ5分×3回 視点：自然環境、人口都市、産業、交通、防災、生活文化 3 他のグループの発表を聞き、学校周辺地域の特色や課題についてまとめる。 4 <u>他のグループの発表から改めて考えた学校周辺地域の特色や課題について発表する。</u>	・調べた結果を文章で表現したり、グラフや表にして分かりやすく示したり、地図を活用して表現したりして、学校周辺地域の特色を捉える。 ・視点を明らかにして、特色ある事象を成り立たせている要因等もあわせて発表させる。 ・自分たちのグループでは捉えられなかった地域の特色の発表を聞き、考えを広げさせ、まとめられるようにする。 ・発表から気付いた地域の特色や課題について整理し、考えの変容や深まりをもたせる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">思・判・表</div> 学校周辺地域の特色に着目して、地図等にまとめた調査結果を多面的・多角的に考察し、表現している。
<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">事例のポイント③</div> 野外調査（フィールドワーク）を実施し、実際に様々な地理的事象を眺め、全体で共有することで、地理的な視点で、社会との関わりを意識することにつなげる。		
5 学校周辺地域の課題について取り上げ、解決方法を考察する。 6 「振り返りシート」を書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;"> <div style="background-color: #f0f0f0; display: inline-block; padding: 2px;">ICT活用の利点②</div> 共同編集ソフトを活用し、振り返りを共有することによって、多様な考えに触れることができるようにする。 </div>	・「(4) 地域の在り方」につながるように、現時点での地域の課題解決に関心をもたせるようにする。 ・単元の学習や、地域調査の結果を示した地図を踏まえ、地域調査の手法や地域の特色や課題についてわかったこと、 <u>単元を貫く学習問題の結論を「振り返りシート」に記入させる。</u>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">主</div> よりよい地域社会の形成に向け、学校周辺地域の課題を主体的に追究しようとしている。
<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">事例のポイント②</div> 学びの過程について自覚する機会を意図的に設け、生徒が学習を自己調整し、学習課題を追究する際、各々の学習目標の設定を手助けすることができる工夫をする。		

単元を貫く問いの解（例1） 地理的な視点：環境保全 自然環境

附属中周辺は高低差があり、大宮台地のへりに位置していることがわかった。ハザードマップによると土地の低い場所は洪水の危険性があり、別所沼も氾濫する可能性があり、附属中は避難所となっている。また新旧の地図を見比べてみると低地は水田があったことがわかり、洪水が起きないように工夫してきた歴史があることがわかった。

単元を貫く問いの解（例2） 地理的な視点：交通や通信 人口都市

学校周辺には、横断歩道を見てもスクランブルになっているところもあれば、横断歩道が設置されていないところもある。これは人の流れや交通量に偏りがあるからだ。このことから学校周辺では人口や交通の分布に偏りがあることがわかった。人や交通量の多い地域では事故の危険が多くなる課題がある。関東平野であるにもかかわらず、武蔵野貨物線が通るトンネルがみられ、高低差も感じられる。比較的浅い地下を通っているため、地上には住宅が建たず、不自然な土地利用が多くみられる。

単元を貫く問いの解（例3） 地理的な視点：産業 生活文化

附属中は大宮台地のへりに位置し、大戸貝塚が見られ、かつては海に面していたことがわかった。低地には鴻沼川が流れ、今昔マップを見ると、かつて水田が広がっていることがわかる。江戸幕府の役人であった井沢弥惣兵衛為永が「見沼代用水」を造ったのちに、水田開発のために築造した高沼（鴻沼）用水路が造られ、浦和の人々の生活を支えていたことがわかった。付近には沼地が多く、かつて栄えた浦和宿では沼地でとれた鰻を販売していたため、鰻が現在でも浦和の名物となっている。

6 板書計画

単元を貫く問い 私たちが住む附属中周辺にはどのような特色があるのだろうか

地理的な視点

- 視点①・・・どこに位置するのか、どのような自然環境なのか（自然環境）
- 視点②・・・どのような街並みなのか（人口都市）
- 視点③・・・どのような産業が盛んなのか（産業）
- 視点④・・・他地域とどのように結びついているのか（交通や通信）
- 視点⑤・・・環境保全に対してどのような取り組みを行なっているのか（環境保全）
- 視点⑥・・・生活や文化にどのような特徴があるのか（生活文化）

【生徒が設定した調査テーマの例】

調査テーマ	調査対象	生徒が導き出した特色
・高沼用水路はなぜつくられ、何の目的でここまでつなげられたのか	・GIS等 グーグルマップ、国土地理院地理院地図、RESAS、今昔マップ（谷謙二研究室）、さいたま市ハザードマップ等 ・図書館 総務局統計資料、埼玉県統計資料、地域教材 ・施設等 さいたま市文書館、さいたま市役所、総務省統計局、さいたま市役所鴻沼用水資料館、別所沼、白幡沼、大戸貝塚、大森貝塚、鉄道博物館、武蔵浦和駅等	大宮台地のへりにある。昔は低地が海であった。沼地が多く見られる。へりには貝塚等の遺跡が多く見つかる。高低差が激しいことでハザードマップに違いがみられる。低地に比べて高地の地価が高い。附属中は避難所になっている。高沼用水路が近くを流れ、昔は田んぼが広がっていた。人口が密集し、外国人も多く居住している。農業があまりみられず、サービス業が盛ん。駅がたくさんあり、附属中近くには武蔵野貨物線が通る。浦和宿の歴史からうなぎが有名である。附属中は南区と浦和区に位置している。さいたま市は外国の都市と交流がある。さいたま市は小麦の消費量が多い。 など
・標高の高低差による効果 ～標高が高いか低いかで生活にどんな影響を及ぼすのか～		
・モニュメントが多く存在する理由とは ～別所沼の銅像から探る～		
・なぜ附属中周辺は住宅街が多く、サービス業が多いのか		
・附属中周辺の海外とのつながり ～人と交通との関わりからみる海外と日本の関係～		
・なぜもともと鉄道があったところがなくなり、新しく駅ができたのか		
・自然が豊かだった浦和は、どのように現在の姿になったのだろう		
・昔、今、未来の緑と水はどのように移り変わっていくのか		
・駅ができたから人口が増えた？人口ができたから駅が増えた？		
・なぜこの場所が発展してきたのだろう？～どのように土地と人々が変化してきたのだろう～		
・武蔵野線はどのような経路でつながっているのだろうか		
・自然が豊かだった浦和はどのように現在の姿になったのだろう		
・附属中周辺とうなぎにはどのような関わりがあるのだろうか		
・附属中周辺の食生活を解き明かす！～なぜさいたま市は小麦の消費量が多いのか～		
・「沼」が私たちにもたらした影響とは？		
・世界中とのつながりからわかるさいたま市の存在意義とは		
・附属中周辺の特産物の移り変わり～高低差は関係ある？～		
・別所沼公園は人々にどんな影響を与えている？		
・貝塚大量発生真相に迫る！～歴史と地形を繋げて読み取る～		
・坂があることが私たちの生活にどのような影響を与えているのだろう		
・附属中周辺の人口～富んで埼玉～		
・なぜ浦和には路線が充実しているのだろうか？		
・なぜ附属中周辺の地価は高いのか		
・区の違いとは？～浦和区と南区にはどのような違いがあるのか～		
・附属中周辺は凸凹しているのになぜ発展しているのだろうか？		
・うなぎと沼にはどんな関係があるのだろうか？		
・附属中周辺と外国との関係とは？		

7 事例のポイントと考察

(1) 事例のポイントについて

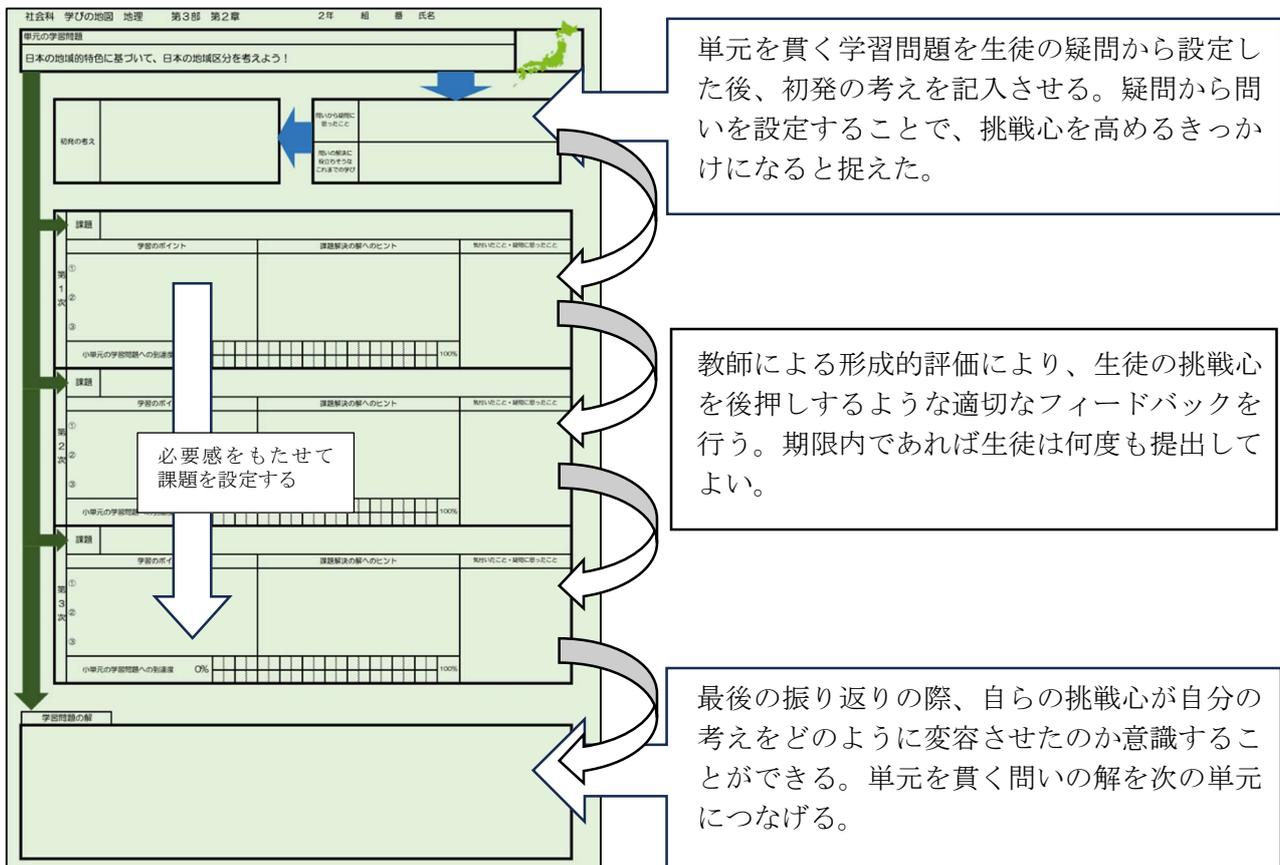
- ① 生徒たちが調査したいと必要感に駆られ、「自分ごと」とできる課題を設定し、困難に向き合い、試行錯誤するなどの学びの場面を工夫する。

生徒たちが調査したいと必要感に駆られる課題を設定することが、困難に向き合い、試行錯誤するなどの挑戦する学びの場面となると捉えた。単元の導入では、認知地図（メンタルマップ）の作成を行い、生徒が附属中学校周辺の地図を思い出しながらかくことで、自らが生活する地域についてまだまだ知らないことがあることに気付かせるだけでなく、生活舞台である地域への興味関心を抱かせることを狙った。単元の学習問題を「歩いて発見！附属中周辺の特色」とし、野外調査（フィールドワーク）を通して、自然環境、人口都市、産業、交通、環境保全、生活文化の6つの視点に触れながら学習を進めることで、観察対象の焦点化、野外調査方法の吟味、文献資料の収集などの適切な視点が得られるだけでなく、後に学習する「(2)日本の地域的特色と地域区分」で取り上げる項目や「(3)日本の諸地域」、地理学習の最後に行う「(4)地域の在り方」にもつながる。

- ② 学びの過程について自覚する機会を意図的に設け、生徒が学習を自己調整し、学習課題を追究する際、各々の学習目標の設定を手助けすることができる工夫をする。

本校社会科では授業の設計と生徒の思考の変容を自身が認識するためなどを目的に「社会科振り返りシート」という振り返りのワークシートを活用している。「社会科振り返りシート」により、「挑戦心」を発揮したり「挑戦心」が高まったりするきっかけとなった事柄や得られた成果などといった、生徒のもつ「挑戦心」に影響を与えた学びの過程について自覚する機会を意図的に設けることができる。さらに「振り返りシート」の形成的評価により、「挑戦心」を後押しするような適切なフィードバックが可能であり、生徒が学習を自己調整し、学習課題を追究する際、各々の学習目標の設定を手助けすることができる。以下生徒の「社会科振り返りシート」を例として示す。

【本校社会科における振り返りシート】



③ 野外調査（フィールドワーク）を実施し、実際に様々な地理的事象を眺め、全体で共有することで、地理的な視点で、社会との関わりを意識することにつなげる。

第1次では、附属中周辺の特色や疑問を地形図に書き込ませる活動を行い、地域調査を進める上での効果的な調査方法について考察させ、地形図の読み取りやGIS（国土交通省「国土地理院地理院地図」、RESAS 地域経済分析システム、今昔マップ、web 等高線マーカー等）の活用などの技能の学習につなげた。第2次では第1次で活用した資料をもとに野外調査（フィールドワーク）を実施し、実際に様々な地理的事象を眺め、全体で共有することで、自然環境、人口都市、産業、交通、環境保全、生活文化の6つの視点を捉え、地域の特色について考察することを狙った。単元のまとめでは、附属中周辺について疑問に思ったことを持ち寄り、グループごとに調査テーマを決め、野外調査（フィールドワーク）の視点を生かしながら調査を行った。

野外調査（フィールドワーク）の様子



【野外調査（フィールドワーク）計画】

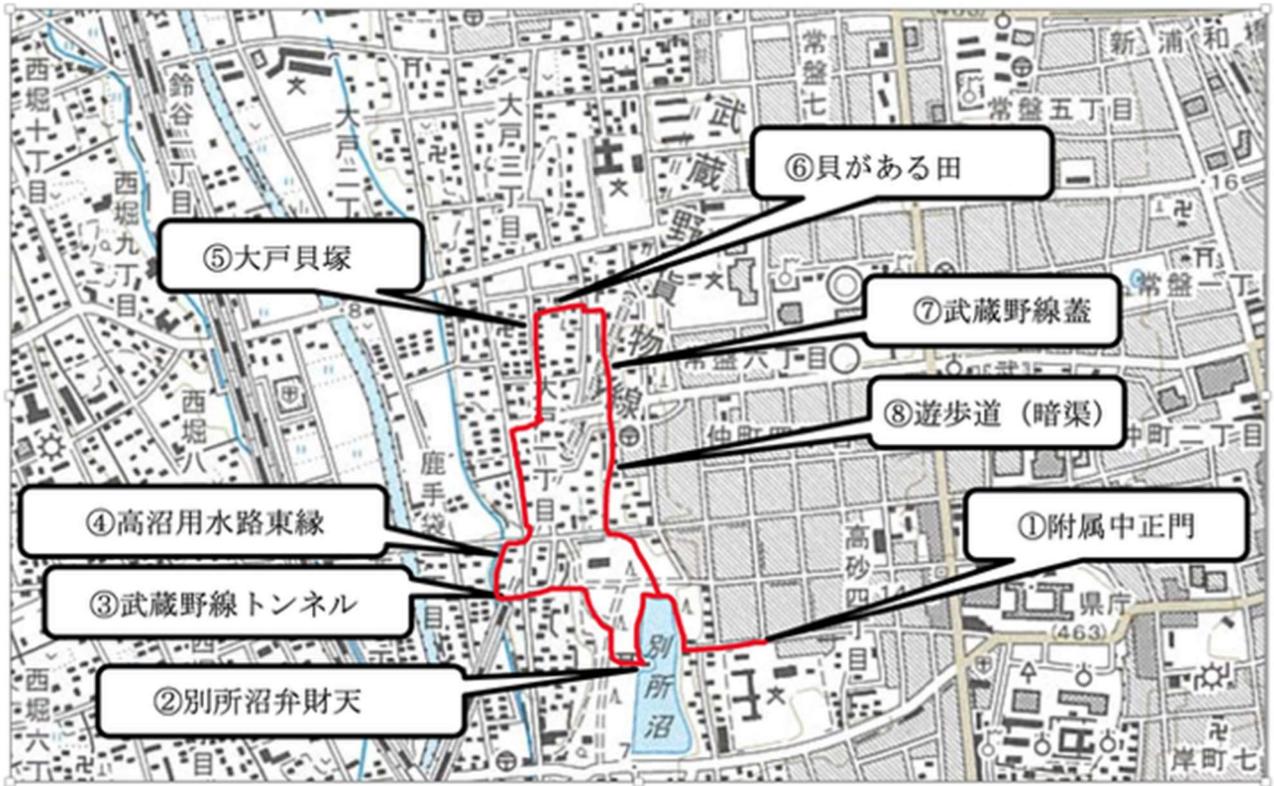
・ねらい

直接経験地域の特色を実際にみることで、我が国の国土に関する地理的認識を深めるため
観察対象の焦点化、野外調査方法の吟味、文献資料の収集などの適切な視点を与えるため

・当日のスケジュール

時間	○生徒の活動	教師の動き
08:37	○昇降口集合・整列・点呼（健康観察） ○あいさつ ○諸連絡を聞く。 【服装】制服 【持ち物】配布資料、バインダー、ペン	諸連絡（教科担任） ★グループで一台タブレット PC
08:40	○出発 徒歩で別所沼公園へ向かう。 ※グループ順1列	先頭（教科担任） 最後尾（補佐教員）
08:45	○別所沼弁財天 各自気付いたことをメモする。	「問い」の提示 視点：自然環境・環境保全・生活・文化
08:55	○武蔵野トンネル 各自気付いたことをメモする。	「問い」の提示 視点：交通・通信 産業自然環境・環境保全
09:00	○鴻沼用水東縁を歩く	「問い」の提示 視点：人口や都市 自然環境
09:05	○大戸貝塚 各自気付いたことをメモする。	「問い」の提示 視点：生活・文化
09:10	○武蔵野線の蓋をみる	「問い」の提示 視点：交通・通信・産業・人口や都市
09:15	○遊歩道（暗渠）を歩く	「問い」の提示 視点：生活・文化
09:25	○附属中到着 ○集合・点呼 ○諸連絡	諸連絡（教科担任）

- ・場所 埼玉大学教育学部附属中学校付近
 ルート赤字 ①→⑧で移動する



【生徒Aの社会科振り返りシート】

<p>●道が三角形になって交差していることが多い</p> <p>●坂道が多い</p> <p>●建物が多いが自然も多い</p>		<p>特色とは何か</p> <p>特色をどう表すのか？(どこまで正確に描くか、どの情報を入れればよいか)</p>	<p>課題解決へのヒント</p> <p>①地図(地形図・地勢図)で調べる 縮尺・方位・高さ(等高線)・地図記号(土地利用)を基に平面から様々な情報を得る→その場に行かなくても、その土地の自然的情報などを知ることができる</p> <p>②地図(主題図)で調べる ヒートマップやグラフなどから数値的なデータを読み取る→データをより分かりやすくまとめて読み取れ、推移や交流などを知らることができる</p> <p>③実際に足を運んで調べる 行ってみないとわからないこと(傾斜や見た目など)を五感を使って調べる→その地点によりフォーカスして自分の感じ方からとることができる</p> <p>④インタビューをする→調べて分らなかったことや人に聞かないとわからないことなどを聞いたりしながら調べることができる</p> <p>⑤文献資料を探す→図書館や博物館・科学館・資料館などの場所資料を探ることによって、インターネットなどに比べより精度の高い情報を得られる</p>
<p>現時点での附属中周辺の特色を自由に書かせる</p> <p>必要感をもたせて課題を設定している。</p>		<p>地図を見たこと(地図を使ってその地名を調査したこと)</p> <p>中1の夏休みの身近な地域の歴史によって調査したこの地域の地形の移り変わり</p> <p>理科(地学) 小学校の社会の地理的分野</p>	<p>調査の仕方についてよく書けています。他にも調査の仕方があるのかな？</p>
<p>課題 附属中周辺をどのように調査すれば良いのだろう</p>	<p>学習のポイント</p> <p>① 資料の読み取り</p> <p>② 資料の工夫(自分なりに作るなど)</p> <p>③ フィールドワークのポイント</p>	<p>課題解決へのヒント</p> <p>①地図(地形図・地勢図)で調べる 縮尺・方位・高さ(等高線)・地図記号(土地利用)を基に平面から様々な情報を得る</p> <p>②地図(主題図)で調べる ヒートマップやグラフなどから数値的なデータを読み取る</p> <p>③実際に足を運んで調べる 行ってみないとわからないこと(傾斜や見た目など)を五感を使って調べる</p> <p>④インタビューをする</p> <p>⑤文献資料を探す</p>	<p>気付いたこと・疑問に思ったこと</p> <p>・どれか一つだけ行ったり一気に行ったりしてもあまり効果がない。そのため、「下調べ」のようにある程度資料や地図等で調べた後に実際に足を運び、そこで疑問となったことを再び資料で調べるなどをすることが必要</p>
<p>必要感をもたせて課題を設定している。</p> <p>100%</p>		<p>よく書けているがもう少し良くなる...</p>	<p>生徒の変容</p> <p>調査の仕方について、どのような場面で使うべきか具体的な記載が増えた。</p>
<p>課題 効率的に調査するにはどうしたらよいのだろう</p>	<p>学習のポイント</p> <p>① 前提知識の確認・復習</p> <p>② 資料の活用</p> <p>③ 実体験の活用</p>	<p>課題解決へのヒント</p> <p>①疑問を持ち整理する 下調べした内容から生まれた新たな疑問を基に、わからないことともう知っていることを分けて組み合わせながら考え、整理しておく</p> <p>②テーマを決め予想を立てる ①を基に特に気になった内容や調べたい内容を調査テーマとして決める</p> <p>③調査方法や手段などを考える</p> <p>④調査をする</p>	<p>気付いたこと・疑問に思ったこと</p> <p>・検索したり本を探したり、調査テーマを立てたりする際は少し視点を変えたり知りたいたいことをもう一度整理してみるとよい。</p>
<p>必要感をもたせて課題を設定している。</p> <p>0%</p>		<p>6つの視点に触れてほしい...</p>	<p>課題解決へのヒント</p> <p>調査の仕方</p> <p>①今すでに知っている内容を基に下調べをする このとき、少しずつ視点を絞りながら調べてもよい</p> <p>②疑問を持ち整理する 1で行った内容から生まれた新たな疑問(視点:歴史、交際、自然、人口、環境保全など) (疑問を作るために:視点を基に疑問詞を使ってとにかく直感で上げてみる)</p> <p>を基に、わからないことともう知っていることを分けて組み合わせながら考え、整理しておく</p> <p>③テーマを決め予想を立てる 2を基に特に気になった内容や調べたい内容を調査テーマとして決める。</p> <p>④調査方法や手段などを考える ⑤調査をする3</p>
<p>単元の学習問題への到達度 0%</p>		<p>新たな疑問を出すために大事なことってなんだろう？</p>	<p>生徒の変容</p> <p>6つの視点をあげ、視点を絞ることで効果的に調べられることが書かれている。</p>

(2) 実践に当たっての留意点

本単元では、単元の導入から自然環境、人口都市、産業、交通、環境保全、生活文化の6つの視点を示したことで、生徒同士の話し合い活動が論点を外れることなく進行できる。単元の導入で行なった認知地図（メンタルマップ）の活動では、道を全て直線で書いてしまう生徒や、交差点の建物を思い出せない生徒が多く、全体で意見交換等を行うことで、「(1) 地域調査の手法」への必要感をもちながら単元の学習問題へとつなげられる。「社会科振り返りシート」における初発の考えには、「地図に描かれた情報を正しく読み取れるようにする」「実際に行き確かめる」などの意見が出るような問いかけが求められる。

GISの活用については、共同編集アプリ（Microsoft teams）に専用のチャンネルを作りリンクを貼り付け、単元を通して生徒が活用できるようにした。地域のデータだけでなく、日本全体の地理についても興味深く調査するよう促し、今後学習する「日本の諸地域」での活用にもつなげる。またGISの学習を通して生徒が作成した資料をそのまま野外調査（フィールドワーク）の資料に用いることで、生徒が学びの過程を意識することにつながった。

野外調査（フィールドワーク）については、各クラス50分と短い調査となるため、6つの視点を意識しながら、回る箇所を決定した。教師からは多くの「問い」を生徒に投げかけることで、生徒がより興味関心をもち、楽しみながら地理に親しむ様子がみられた。

調査テーマの決定については、単元を通して出た多くの疑問から、ただの調べ学習にならないような疑問を選択し、設定する必要がある。

予め6つの視点を示したことによって、生徒の学びの見通しが立ったものの、生徒の主体的な学びを制限する側面もある。地形図や主題図の読図などの地理的技能を身に付ける時間を生徒の実態に合わせて設定する必要がある。地域に開かれた教育課程の観点において、聞き取り調査の対象を広げ、ゲストティーチャーを授業に取り入れる方策もあった。調査が単なる調べ学習になってしまうグループもあり、様々な視点から多面的・多角的に考察させることの難しさもある。日程の関係でフィールドワークの時間が50分と短く、生徒がゆっくりとメモを取る時間の確保ができなかったため、余裕のある計画が求められる。野外調査を行なったことで調査内容に偏りがあるので、共有の時間をしっかり設定する必要もあった。